



分科会 8 医療と福祉の橋渡し役としての薬局

10月7日(日) 13:30～16:00 第16会場(ホテルクラウンパレス浜松 3F 松の間A+B)

W-08-03

禁煙サポート薬局事業が発展するかは認定薬剤師が地域でどのように活動するかがカギ

はら たかあき
原 隆亮
和歌山県薬剤師会

たばこは病気の原因の中で、最大の予防できる単一の原因(WHO)とされ、喫煙関連疾患の予防と治療に禁煙は欠かすことができない要素と言える。しかしながら、本邦における喫煙率は今なお他の先進国に比べ一段と高く、本邦における喫煙率低下には、医療関係者による地域における積極的な禁煙支援が必要である。和歌山県薬剤師会では平成14年より認定禁煙支援薬剤師制度また県と連携した禁煙サポート薬局事業を行い、これらは和歌山モデルとして全国に広がっているが認定制度をつくっている薬剤師会でその事業が発展しているところと衰退しているところに二極化されている。

○ 禁煙支援薬剤師養成講習会内容 1) 禁煙日記を利用した具体的な薬局でのOTCパッチを使用した禁煙支援例) 1日分の小分け販売、役に立つ薬剤師の一言 禁煙継続のコツなど 2) 調剤が中心の薬局でも実際にOTC禁煙パッチを販売できるように事例を通して禁煙支援の体験 3) 禁煙支援の一言をクイズ形式で解いていただきながら禁煙支援のコツを取得 4) 実習薬学生に薬局での禁煙支援法をどのように教えればいいのか 5) 禁煙支援薬剤師が地域でどのように活動するか 例) 和歌山県薬剤師会認定薬剤師が行う出前禁煙教室

○ なぜ「禁煙支援が薬剤師を救う」のか まず 禁煙支援は「吸っている」か「やめた」なのでデータが出しやすいということでありつまり薬剤師のスキルを具体的にデータ化できる。1) 第1類医薬品であるOTC禁煙パッチを利用した薬剤師の禁煙支援により禁煙成功へ導いたという実績を重ねていく→薬剤師に禁煙支援のスキルがある→軽症糖尿病など生活習慣病も薬剤師にまかせてみようか→スイッチOTC化がすすむ 2) 禁煙外来の処方でも院外 院内で比較して 院外処方でも薬剤師がかかわった方が成功率が高くなるというデータがあれば 医薬分業の重要性をあらためて立証できる。3) 入院中は禁煙していた患者さんが退院した時 再喫煙してしまうことがある。退院時からかかりつけ薬剤師が病院薬剤師と連携しながら 退院直後に電話するなどしながら 患者さまが病院を次に受診するまで再喫煙を防ぐことができれば 薬薬連携で再喫煙の防止ができたというデータが出せる。まとめ都道府県薬剤師会が行っている認定制度やサポート薬局事業が発展するか衰退するかは認定をとった薬剤師が禁煙教室や禁煙セミナーを通して地域でどのように活動するかにかかっている。またOTC禁煙パッチを利用した禁煙支援や禁煙外来との連携も大切であるしかし、難しく考えるより全国の薬剤師が「タバコは何本吸われますか?」「禁煙パッチで簡単にやめている方が多いですよ」「一生やめると思わないで、パッチを使って1週間だけやめてみてはどうでしょうか」の声をかけをして、みんなで禁煙支援にハマってみてはどうか